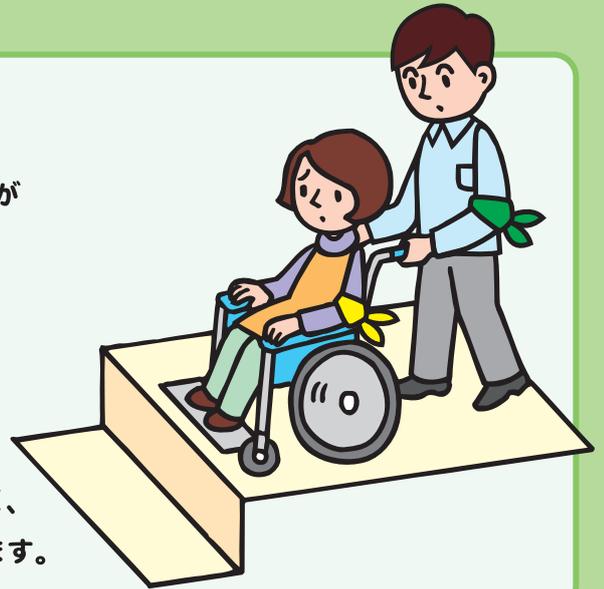


障害のある人に配慮してほしいこと

例えば・・・

肢体不自由のある方

- 下肢に障害のある方は、段差や階段、手動ドアなどがあると進行が妨げられてしまうことがあります。
また、歩行が不安定で転倒しやすい方もいます。
- 脳性マヒの方の中には、言語障害に加え、顔や手足などが自分の思いとは関係なく動いてしまうため、自分の意思を伝えるに難しい方もいます。
- 脊髄や頸椎を損傷された方の中には、手足が動かないだけでなく、感覚もなくなり、周囲の温度に応じた体温調節が困難な方もいます。



視覚障害のある方

- 目からの情報が得にくいいため、音声や手で触ることなどにより情報を入手しています。

聴覚・言語障害のある方

- 外見からはわかりにくい方もいます。
- 補聴器をつけている方もいますが、明瞭に聞こえているとは限らず、相手の口の形を読み取るなど、視覚による情報で話の内容を補っている方もいます。
- 聴覚障害のある方の中には声に出して話せる方もいますが、相手の話は聞こえていない場合もあります。



内臓機能に障害のある方

- 外見からはわかりにくい方もいます。
- 障害のある臓器だけでなく全身状態が低下していることもあり、体力がなく、疲れやすいこともあります。
- 心臓ペースメーカーを埋め込んでいる方の場合、電磁波などの影響を受けると誤作動するおそれがあります。

知的障害のある方

- 遠回しな言い方や曖昧な表現は理解しにくいこともあります。
- ひとつの行動に執着したり、関心のあることばかり一方的に話す方もいます。
- 相手の表情・態度やその場の雰囲気を読み取ることが苦手な方もいます。
- 言葉よりも絵や写真のほうが理解しやすいことがあります。
- 痛みの伝わり方が弱い方や痛みがあってもうまく訴えることができない方もいます。そのため、見かけよりも症状が重い場合があります。
- パニックになったときに、怒ることは逆効果になることもあります。
- 「痛い?」と質問し、「痛い」と答えても、オウム返しをしている場合もあります。
- 環境の変化が苦手な方もいます。



発達障害のある方

※「発達障害」とは…自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの(発達障害者支援法第2条)

- 外見からはわかりにくい方もいます。
- 相手の言ったことを繰り返すときは、その内容を理解できていないこともあります。
- 遠回しな言い方や曖昧な表現は理解しにくいこともあります。
- 相手の表情・態度やその場の雰囲気を読み取ることが苦手な方もいます。
- 順序だてて論理的に話すことが苦手な方もいます。
- 年齢相応の社会性が身につけていない方もいます。
- 関心のあることばかり一方的に話す方もいます。

精神障害のある方

- ストレスに弱く、疲れやすく、対人関係やコミュニケーションが苦手な方もいます。
- 周囲の言動を被害的に受け止め、恐怖感を持ってしまう方もいます。
- 外見からはわかりにくく、障害について理解されず孤立している方や、学生時代の発病や長期入院のために社会生活に慣れていない方もいます。
- 「酔っている」と間違われることもありますが、服薬の関係でろれつが回らなかったり、発音が不明瞭な場合があります。
- お腹が痛い、頭が痛い等の身体症状を過剰に心配する方もいます。大げさに言ったり、病気のふりをしているのではなく、本当にそう感じている方がいます。
- 本人に「どうしますか?」と聞いても決められない場合が多くあります。
- 一度にいろいろ尋ねると混乱することもあります。

